

2023～ ソーシャルワークリサーチ・研究方法論 (実践研究・実証研究の方法)	単位数	履修方法	配当学年
	2単位	SR	1・2年
	担当教員	狩野 俊介・大石 剛史	

■授業のテーマ

社会福祉・ソーシャルワーク実践の質を高めるとともに、実践現場における実践知の発信力を向上させるために必要な科学的なソーシャルワーク研究の方法論を学び、実践研究に必要なリテラシーを身につける。

■授業の目的

通信制大学院の研究科専攻等の学位授与方針（ディプロマポリシー）に基づき、社会福祉・ソーシャルワーク実践の質向上に資する実践的で科学的なソーシャルワーク研究方法論の知識と技術、価値観を学び、実践研究に関するリテラシーを修得し、自らの実践に結びつけていくことができることを目的にする。

■授業の到達目標

- ・社会福祉・ソーシャルワークの実践家が自らの実践経験・現場において実践研究に取り組むことは実践の質を高め、社会的な実践知を積み重ねることとなり、実践研究は実践活動の一部であることを理解できる。
- ・受講者自らの実践事例、自職場で提供するサービスやプログラム、さらには諸活動をソーシャルワークリサーチの観点から振り返り、より良い実践や活動、プログラムの改善、新たな活動の創出に反映できる。
- ・科学的なソーシャルワーク研究方法論を用いて、自職場での実践を社会に発信できる研究力を高め、他の同様な課題を抱える実践現場への般化・応用による実践の質の向上に貢献できる。

■授業の概要

- ・社会福祉・ソーシャルワークの実践現場で実施されている実践、サービス、プログラム、諸活動を科学的に検証し、新たに実践現場で用いることができる「知」を創出できるソーシャルワークリサーチ、研究方法論を身に付けられるように講義する。
- ・「修士論文研究計画法概論」の授業を引継ぎ、本授業の中では、「概論」で作成した「学位請求論文研究計画書」を随時ブラッシュアップして、より実践及び社会的に有用性の高い実践研究の計画になるようサポートする（なお科目等履修される方は、自身が持つ研究課題について「研究計画書」を作成の上、参加すること）。
- ・「学位請求論文研究計画書」（科目等履修生の場合は「研究計画書」）は、授業期間中、3回にわたって行う同時双方向リモート授業の際に、それまでに行うオンデマンド授業の成果を踏まえて改訂作業に取り組んでもらう。
- ・オンデマンド授業は、この授業のために独自に講師が作成した授業資料と、動画資料に基づいて行い、各回ともコメント票（ミニレポート）を提出する。

■在宅学修

(1) レポート課題

課題 1 (事前課題)	<p>「修士論文研究計画法概論」で作成した「学位請求論文研究計画書」(科目等履修生の場合は独自に作成した「研究計画書」)の改訂版を提出してください。</p> <p>これに加えて、①スクーリングの前に行うオンデマンド授業をどのように理解し「研究計画書」の改訂に反映したのか、②オンデマンド授業の内容で「研究計画書」の改訂に苦労したこと、疑問を感じた点などについて、コメントをA4用紙2枚程度にまとめてください。</p>	<p>【提出期限】</p> <p><input type="checkbox"/> 対面授業1週間前まで</p> <p><input type="checkbox"/> 対面授業前日まで</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> その他 (1回目のリモート授業1週間前まで)</p>
----------------	--	---

<p>課題 2 (事後課題)</p>	<p>「修士論文研究計画法概論」で作成した「学位請求論文研究計画書」(科目等履修生の場合は独自に作成した「研究計画書」)を事後課題として、最終改訂版を提出してください。これに加えて、①スクーリングの前に行うオンデマンド授業をどのように理解し「研究計画書」の改訂に反映したのか、②オンデマンド授業の内容で「研究計画書」の改訂に苦労したこと、疑問を感じた点などについて、コメントをまとめてください。また、③この授業で学んだことが、今後の実践活動にどのように反映できそうであるかについてもまとめてください。①～③については、A4用紙2～3枚程度にまとめてください。</p>	<p>【提出期限】</p> <p><input type="checkbox"/> 対面授業後1ヶ月以内</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 受講年度の最終レポート受付日まで</p> <p><input type="checkbox"/> その他 ()</p>
------------------------	---	--

【要確認】在宅での印刷教材等による学修の報告となる「レポート課題」の他に、オンデマンドを含むスクーリングでは「スクーリング事前課題」「スクーリング事後課題」が設けられています。スクーリング課題(予習・復習)がレポート課題1・2に相当する場合、それとは別に設けられている場合があります。この後に記載のスクーリングの項の各課題についても確認してください。

(2) アドバイス



在宅学修15ポイントに関連したオンデマンド教材、およびそれに関わる授業資料をよく参照する。また、スクーリング時の在宅学修15ポイントに関する解説と質疑応答を踏まえて、次の「学位請求論文研究計画書」の改訂に反映させる。



在宅学修15ポイントに対応したオンデマンド教材、およびそれに関わる授業資料を十分に参照する。また、スクーリング時の在宅学修15ポイントに関する解説と質疑応答を踏まえて、「学位請求論文研究計画書」(科目等履修生の場合は独自に作成した「研究計画書」)の事後課題に対応した研究計画書改訂版に反映させる。

(3) 在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
1	実践現場に役立つ「実践研究」の進め方、まとめ方	実践研究はなぜ必要か、実践に有用な実践研究とは	実践研究はソーシャルワーク(SW)実践のプロセスと類似する。良い実践研究の条件について示す。
2	科学的根拠に基づくソーシャルワーク実践とは	エビデンスに基づく実践(EBP)、実践現場での有用性	エビデンスに基づく社会的位置づけの確保、社会サービスの質向上、アカウンタビリティについて示す。
3	研究課題の定式化、研究上の問い(RQ)	研究課題定式化の方法、優れたRQの設定方法	研究上の問い(RQ)のまとめ方、先行文献の調べ方、RQ整理票の活用について示す。
4	実践研究の取り組みのプロセス～研究計画の設定に向けて～	実践研究に取り組むプロセス、RQの定式化(概念モデル)、研究デザインの設定、文献研究の方法	どのようなプロセスで実践研究に取り組めば良いのか、研究上の問い(RQ)の定式化と概念モデルの理解、研究デザインの設定について示す。
5	ソーシャルワークリサーチにおける研究倫理	SW実践と研究における倫理、倫理的問題	SW研究の一般的なガイドライン、研究のメリットと不利益のバランス、研究活動における倫理的問題について提示する。
6	研究対象とサンプリング	量的研究・質的研究のサンプリング、母集団、標本	量的研究と質的研究を実施する上でのサンプリング方法について提示する。実践研究に関わる調査において計画的にサンプリングする重要性を理解する。
7	データ収集の方法、調査法の種類	質問紙法、面接法、観察法、尺度、インタビューガイド	実践研究に関わる質問紙調査、評価調査などさまざま調査の種類と実施方法を示す。また、RQ・研究目的に対応した定性的・定量的な指標、尺度、インタビューガイドを選択する方法を提示する。

	学修のテーマ	学修内容(キーワード)	学びのポイント
8	実践および実践プログラムの評価の枠組み1～評価5階層と評価デザイン	プログラム評価、評価階層、評価デザイン	効果的な実践および実践プログラムを評価する枠組みの基礎となるプログラム評価の理論と方法を示す。評価の計画(評価デザイン)を設定する上でのプログラム評価の種類とその階層について提示する。
9	実践および実践プログラムの評価の枠組み2～形成的評価の評価デザイン	形成的評価、総括的評価、実践現場で取り込まれるその他のプログラム評価の方法	効果的な実践を設計・開発し、そのモデルを形成・改善し、科学的根拠(エビデンス)を生成する方法を提示する。またモデルを実施・普及するための方法についても提示する。
10	実践および実践プログラムの評価1～実験デザイン・準実験デザイン	アウトカム評価とインパクト評価、ランダム化比較試験、準実験法に求められる適切な対照群の設定方法	科学的な介入研究の評価方法についての理解を深める。対照群設定方法についての留意点、限界などについて検討する。
11	実践および実践プログラムの評価2～シングルシステムデザイン	シングルシステムデザイン、ベースライン期、介入期	SW実践の現場で取り組みが容易な評価の方法として、シングルシステムデザインの種類・方法・実施上の留意点について示す。
12	実践における質的研究方法に関する概論	質的研究の特徴、サンプリング、調査方法	実践に関わる質的研究方法の概要として、質的研究の特徴、データ収集方法、調査技法、実施上の注意点について示す。
13	質的実践研究の種類と方法1	事例研究、オープンコーディング、内容分析、グラウンデッド・セオリー・アプローチなど	実践に関わる質的研究の種類とその特徴について示す。研究目的やRQに基づいて研究方法を選択できることの重要性を確認する。
14	質的実践研究の種類と方法2	質的データ分析、複線径路等至性アプローチ、テキストマイニングなど	実践に関わる質的研究の種類とその特徴について示す。質的研究を実施する上での配慮点について提示する。
15	その他の量的実践研究の種類と、分析方法、配慮点、全体のまとめ	実践記録の活用と分析、二次データの活用と分析、ビッグデータの活用と分析	その他の量的実践研究の種類と配慮点をいくつかのアプローチごとに示す。また、これまでのまとめを行い、各自のRQの深化と研究計画の発展を確認する。

■スクーリング

(1) スクーリング事前課題(学修時間目安:40時間以上)

3回行うリモートでのスクーリング第1回目の1週間前までに、「修士論文研究計画法概論」で作成した「学位請求論文研究計画書」(科目等履修生の場合は独自に作成した「研究計画書」)の改訂版を提出する。これに加えて、①スクーリングの前に視聴するオンデマンド動画をどのように理解し「研究計画書」の改訂に反映したのか、②オンデマンド授業の内容で「研究計画書」の改訂に苦労したこと、疑問を感じた点などについて、A4用紙2枚程度にまとめる(レポート課題1に該当)。

(2) スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	在宅学修15ポイントの1-2の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
2	在宅学修15ポイントの3-4の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
3	在宅学修15ポイントの1-4に関する解説と質疑応答	リモート授業
4	在宅学修15ポイントの5-8の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
5	在宅学修15ポイントの9-10の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
6	在宅学修15ポイントの11の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
7	在宅学修15ポイントの5-11に関する解説と質疑応答	リモート授業
8	在宅学修15ポイントの12-13の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
9	在宅学修15ポイントの14-15の動画配信とコメント票でのフィードバック	オンデマンド
10	在宅学修15ポイントの12-15に関する解説と質疑応答	リモート授業

(3) スクーリング事後課題 (学修時間目安：6時間)

「修士論文研究計画法概論」で作成した「学位請求論文研究計画書」(科目等履修生の場合は独自に作成した「研究計画書」)の最終版の改訂版を提出する。これに加えて、①スクーリングの前に行うオンデマンド授業をどのように理解し「研究計画書」の改訂に反映したのか、②オンデマンド授業の内容で「研究計画書」の改訂に苦勞したこと、疑問を感じた点などについて、コメントをまとめる。また、③この授業で学んだことが、今後の実践活動にどのように反映できそうであるかについてもまとめる。①～③については、A4用紙2～3枚程度にまとめて提出する(レポート課題2に該当)。

■評価の方法・基準

- ・ 課題1レポート (30%)、課題2レポート (30%)
- ・ スクーリング (40%)

■参考文献 (*印=大学から送付される必読図書)

- *1) 在宅学修15ポイントに関連したオンデマンド教材、およびそれに関わる授業資料
- 2) 平山尚ほか『ソーシャルワーカーのための社会福祉調査法』ミネルヴァ書房、2003
- 3) 福原俊一『リサーチ・クエスチョンの作り方』NPO 法人健康医療評価研究機構、2008
- 4) 松村真司、福原俊一『概念モデルをつくる』NPO 法人健康医療評価研究機構、2008
- 5) 古谷野亘、長田久雄『実証研究の手引き』ワールドプランニング、1992